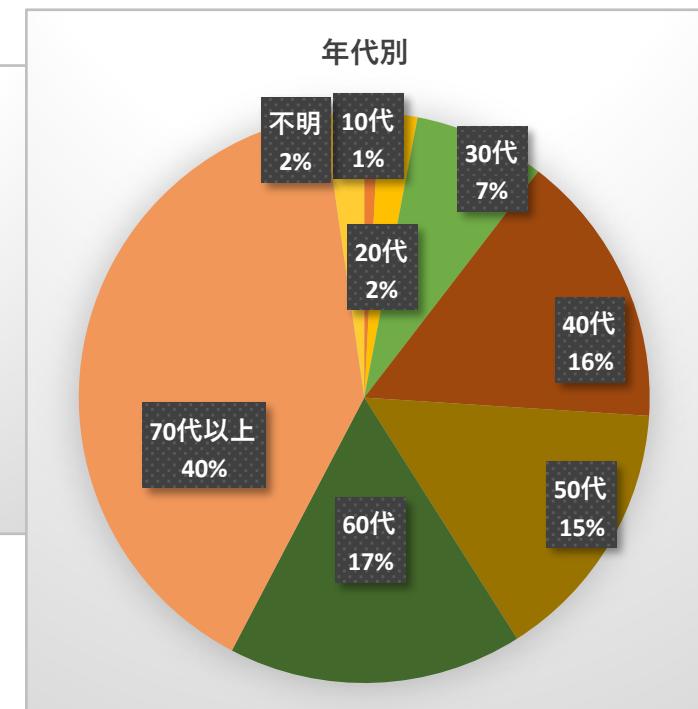
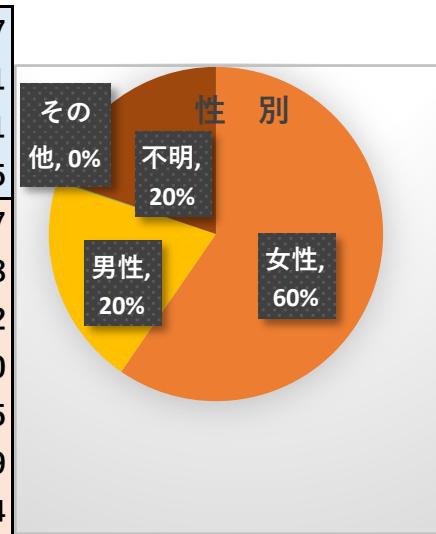


実施期間2025.10月～11月 「物価高騰に関するアンケート」 834名 苫小牧消費者協会

性別	女性	497
	男性	171
	その他	1
記入のない場合は不明	不明	165
年齢	10代	7
	20代	18
	30代	62
	40代	130
	50代	125
	60代	139
	70代以上	334
記入のない場合は不明	不明	19
1. 物価高騰で家計に ①かなりの影響を受けている 受けている影響をど ②多少の影響を受けている ように感じているか ③特に感じていない	504	
	298	
	17	
2. 家計への傷み具合 ①限界を超えた について ②限界を超えるようとしている ③やがて限界を超える ④もう少しだけ余裕がある	111	この物価高騰を家計に96%の方が影響を受けていると感じ、特にかなりの影響を
	227	60%の方が、受けていると感じている。
	323	限界を超えた方は、13%であり、限界の境界線にいる方が67%である。
	135	もう少しだけ余裕がある方が16%
3. 長期にわたる値上げ ①非常に感じる ラッシュにこれからの ②感じている 暮らし及び社会へ不安を感じている 感じているか? ④感じていない	446	
	274	98%の方が、現在の暮らし及び社会に対し不安を感じていて、
	97	そのうち非常に不安を感じている方53%であった。
	5	
4. 物価高騰の痛手は、①食費 家計の特にどの分野 ②灯油などの暖房費 で響いていますか? ③電気料金 ④ガソリン等の燃料費 ⑤日用品	733	<家計に響いている分野>
	518	第1位 食費88% 第2位 灯油などの暖房費62% 第3位 電気料金52%
	437	第4位 ガソリンなどの燃料費50% 第5位 日用品41%
	413	第6位 交通費19% 第7位 医療費17% 第8位 貯蓄・資産形成12%
	338	

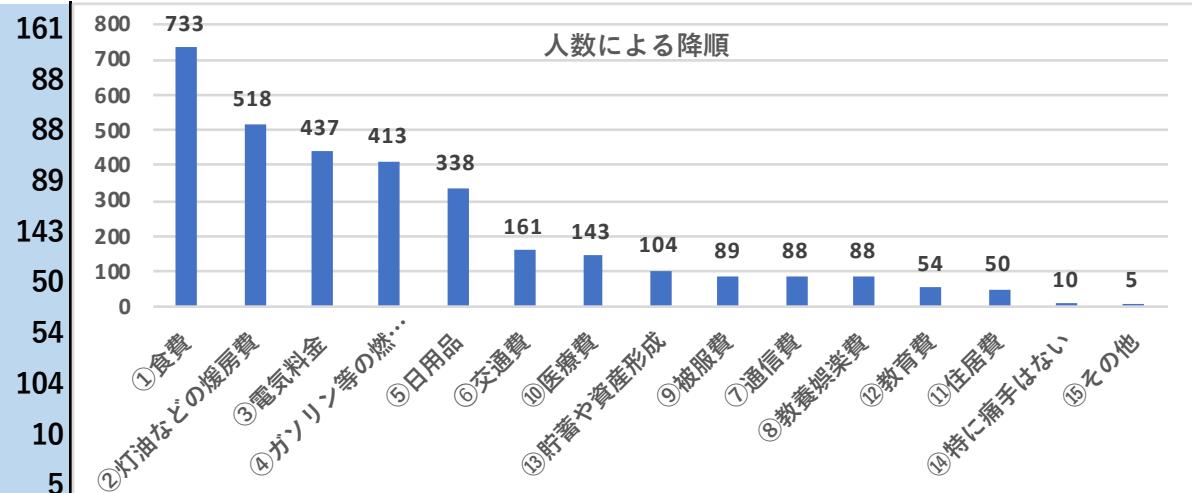


この物価高騰を家計に96%の方が影響を受けていると感じ、特にかなりの影響を60%の方が、受けていると感じている。
限界を超えた方は、13%であり、限界の境界線にいる方が67%である。
もう少しだけ余裕がある方が16%

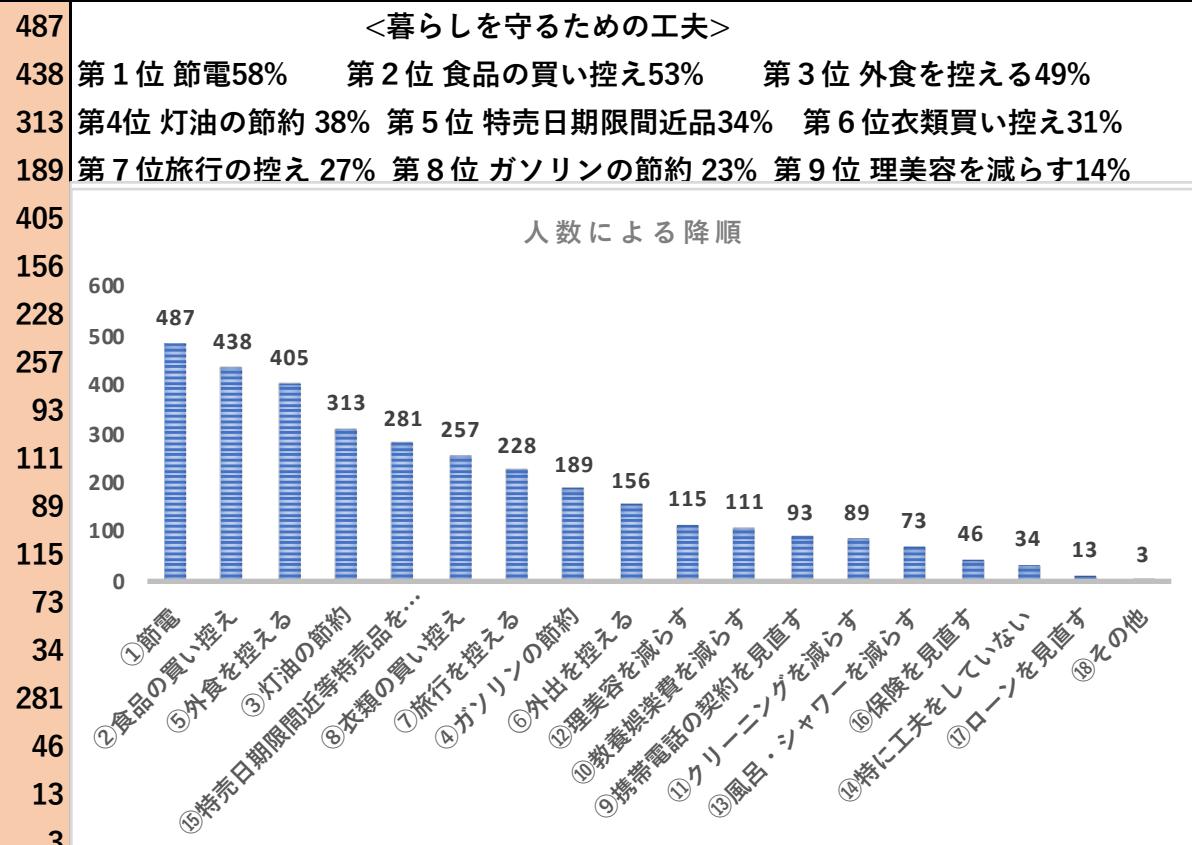
98%の方が、現在の暮らし及び社会に対し不安を感じていて、
そのうち非常に不安を感じている方53%であった。

<家計に響いている分野>
第1位 食費88% 第2位 灯油などの暖房費62% 第3位 電気料金52%
第4位 ガソリンなどの燃料費50% 第5位 日用品41%
第6位 交通費19% 第7位 医療費17% 第8位 貯蓄・資産形成12%

- ⑥交通費
- ⑦通信費
- ⑧教養娯楽費
- ⑨被服費
- ⑩医療費
- ⑪住居費
- ⑫教育費
- ⑬貯蓄や資産形成
- ⑭特に痛手はない
- ⑮その他



5. 物価高騰から暮らし①節電を守るために工夫していることは②食品の買い控え③灯油の節約④ガソリンの節約⑤外食を控える⑥外出を控える⑦旅行を控える⑧衣類の買い控え⑨携帯電話の契約を見直す⑩教養娯楽費を減らす⑪クリーニングを減らす⑫理美容を減らす⑬風呂・シャワーを減らす⑭特に工夫をしていない⑮特売日期限間近等特売品を利用する⑯保険を見直す⑰ローンを見直す⑱その他



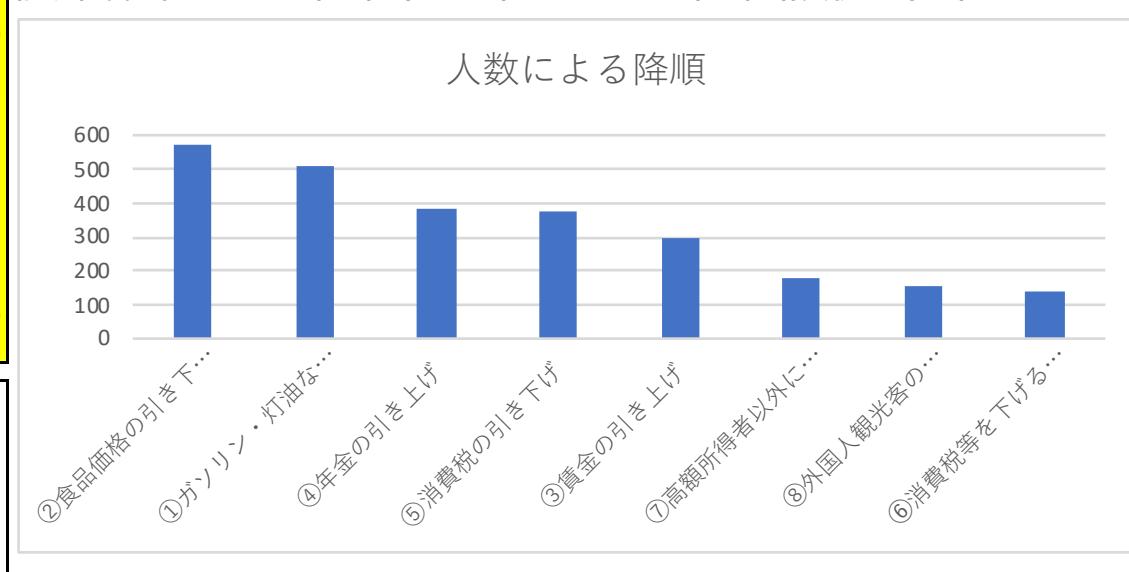
- ①ガソリン・灯油などへの補助制度の拡大
- ②食品価格の引き下げ・据え置き



6. くらしへの支援とし ③賃金の引き上げ
して国や道に望むこと ④年金の引き上げ
⑤消費税の引き下げ

- ⑥消費税等を下げる影響が大きいので他の方法で考えてほしい
- ⑦高額所得者以外に給付対策をしてほしい
- ⑧外国人観光客のタックスフリー（消費税免除）を亡くしたほうが良い

補助制度の拡大61% 第3位年金の引き上げ38% 第4位消費税の引き下げ37%



○厚生労働省「2024（令和6年）国民生活基礎調査の概況」では、全体で58.9%、高齢者世帯では55.8%が生活が苦しいと感じており、65歳以上の無職夫婦世帯では、毎月約3万4000円の赤字が発生しているという。

今回の協会のアンケートでは、「家計への傷み具合」として限界を超えた方・限界の境界線にいる方が全体の約8割となり、家計の傷みを感じている。

○長期にわたる値上げなどのため、これから的生活また、社会に不安を感じている方が98%もあり、その中でも非常に不安を感じている方が53%であった。若い年代（20・30・40代）の暮らしを守るための工夫の回答では外食を控える・衣類の買い控えなど以外の項目にチェックが少なく、あまり物価高騰を気にしていないのだろうかと思えるような回答書であったり、家計にもう少し余裕があると答えている方々も生活・社会に非常に不安を感じるという項目に「チェックしていた方も見られた。苦小牧市民は、混沌とした不安の中で声を上げることもなく何に期待をし、じっと息を潜めて暮らしているのだろうか。

○暮らしを守るための工夫では、当然のことながら食品の買い控えがある

今回も節電・灯油の節約をする割合が上位にきている。

前回のアンケートでは、暖房費の節約のために真冬に日中は暖房をつけず、家の中で防寒着を着て過ごし、夜は、早々と寝床に入るという生活をされている方も多いられたようですが、これから厳冬期に向かい特に高齢者等の身体が心配である。

また、外食を控えるが約50%近くあり、衣類の買い控え・旅行の控えもあり、飲食業者・衣料品業者・旅行業者などへの影響も心配される。

食品ロス削減に取り込んでいる消費者協会としては、34%の方が期限間近な商品に目を向けていているので廃棄食品が少なくなるのではと期待している。